

Amorphous presents

LEGACY

reviving the classics

二日間で極める
若年歯の透明感と表面性状



OSAKA

Last Match



1 M 2 高明度、若年歯を作る

近年、CAD/CAMによってセラミック作製の簡略化が進み、誰もが以前よりも手軽にセラミックを扱える時代になりました。

しかし、だからこそ「デジタル任せではなく、自分にしかできない一本のセラミックを突き詰めたい」と思う人も多いはず。

本コースがテーマにするのは、セラミック修復において最も難易度が高いとされる「高明度な若年歯の再現」。

単に白いだけではない、天然歯が持つ特有の透明感と輝きをどう宿すのか。講師が培ってきた独自の築盛メソッドを、2日間の凝縮されたカリキュラムで余すことなく伝授します。

基礎からステップアップしたい方から、さらなる高みを目指すエキスパートまで。あなたの技工士人生の「分岐点」となる2日間をお約束します。



※渡独間近！残り少ない機会をお見逃しなく！

2014 鹿児島歯科学院専門学校卒業
株式会社ギコウ

2020 スマイルラボ
2021 ADS ceramic

2022 北九州セントラル歯科 nano dental laboratory
2023 大阪セラミックトレーニングセンター宮崎校
週末コース卒業 片岡賞 殿堂入り
cem piskin ハンズオンコース受講
福島光高 ハンズオンコース受講

2024 LEGACY 講師
2026 HAL dental art

講師 幸 大将先生



コース内容

- ・ IPS e.max Ceramを使用したセラミッククラウンの作製
フェイスナルカットバックテクニックで中切歯1本を作製します。



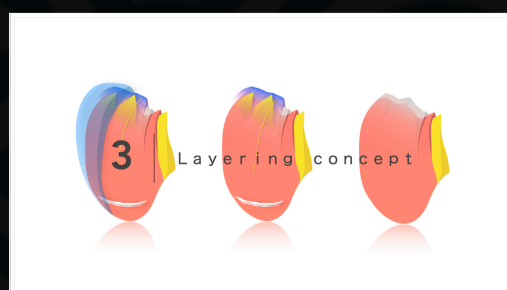
- ・ 天然歯の特徴と解説
天然歯に現れる特徴を理解し、陶材での表現方法や不足している特徴をどのように補うのか解説します。



- 。 シェードテイク実践
実際にシェードテイクを行い、講師が大切にしているポイントを解説、実践します。



- 。 シェード分析及び、使用陶材の選択方法
シェード写真から色を数値で可視化、どのようにしてベース陶材を選択し、色を組み立てていくのかを解説します。



日時

2026 10/3-4 (土.日)

(Sat)9:00~18:00 (Sun)9:00~15:00

定員

15名

受講費

70,000円

上記金額に材料費、昼食代、消費税が含まれています
土曜夜に懇親会を予定しております (実費)
決済後のキャンセルは各種手数料を引いた額
を返金いたしますのでご了承ください

準備物

使い慣れたインスルメントや築盛道具、各種バー
ジルコニアフレーム・模型・陶材はこちらでご用意します

会場

Amorphous 事務

大阪府大阪市中央区本町2-3-4
アソルティ本町7階 LAZARUS内

お問い合わせ

※お問い合わせ/登録は右のLINEにてお願いいたします
ID: @274nsoje



supported by

ivoclar

Forest-one

LEGACY
reviving the classics

ARRS

バカ社長の独り言

『クセなんて直さなくていい もっとクセを出して走れ』

by ジャイロ・ツェペリ（「スティーブル・ボール・ラン」 荒木飛呂彦作より）

昔ビンビンに尖っていた人に久々に会うと、すっかり心も身体も丸くなっていると感じることが、最近多くなってきたように感じる。

もちろん筆者も例外ではない。油断すると、こないだ研いだはずの刃先が心身ともに丸まっていることに気づき、常に「尖らせなければ」という意識と共に毎日を生きているような気がする。

それは「老い」なのか「諦め」なのか、それとも「中途半端に満たされているから」なのか。それは筆者にもわからない。無論、それ自体は決して悪いことばかりではなく、全面的に否定するわけでもない。

ただ、「自然に尖っていく」という現象は、「自信・希望・野望・焦り・怒り・不満・ジレンマ」などを燃料に、ごく一部の人が、短期間にだけ発光する「特有の輝き」なのかもしれないと感じ、ある種の「羨ましさ」を感じるのである。

筆者と今回お招きする幸氏とは、大阪セラミックトレーニングセンター宮崎校の先輩後輩という間柄であり（ちなみに筆者が後輩である）、久々に出会った「自然に尖る男」である。

そんな幸氏が、今年の11月にドイツに移住し、言うなれば「歯科技工の本場」で腕を振るうことになる。

筆者も海外での修行経験があるが、当時相当の覚悟を持って臨んだ記憶がある。さらに、家族とともに移住するとなれば、その覚悟はなおさらである。

本セミナーは、今後世界中で講演活動を行っていくことになるであろう、幸氏の大阪でのラストマッチとなる。

今回の内容としては、氏の得意とする「若年歯特有の透明感と表面性状の再現」にフォーカスを当てた。それなりに前歯部補綴の作製経験のある方なら、それがいかに「デジタルでは再現できない匠の技」であるかがおわかりいただけるだろう。

AIが台頭する時代、今後は多くの仕事の大部分が「デジタル（AI）で完結する仕事」になっていくのだろう。そんな時代には、「AIでもできる仕事しかできない人」人の価値は相対的に低くなり、逆に「デジタルだけでは完結できないこと」ができる人が重宝されていくような気がしてならない。言い方を変えれば、「泥臭い仕事」と「人間臭いやつ」が、価値を帯びていく時代になるだろう。

働き方改革、コンプライアンス、ハラスメント問題、健全化…。 「正論」ばかりが先行し、確実に、昔よりも「尖りにくい時代」になった。

筆者も今後、経営者としてそして歯科技工士として、明確にゴールを意識するフェーズに入る。しかし、これからも尖ったままの「人間臭い、ややこしいジジイ」でありたいと強く思う次第である。

「止まると死ぬジジイ」を想いながら 令和8年6月吉日

LAZARUS / Amorphous 村田彰弘[Ⓐ]